

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 5 2005 年 3 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■ソニーのビデオ会議システム、シスコシステムズ社の「Cisco CallManager」に対応

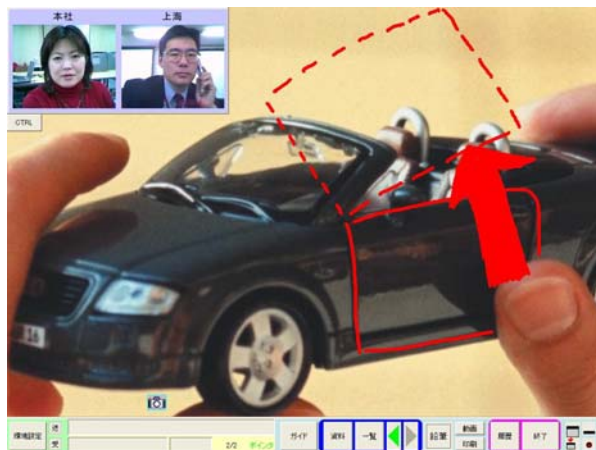
ソニー(東京都品川区)は、今年 4 月から日本、北米及びその他地域で順次、同社のビデオ会議システム「PCS-TL50」と「PCS-1」を、シスコシステムズ社の「Cisco CallManger」及び「SCCP(Skinny Client Control Protocol)」に対応させていく。これにより、これまで個別に組み立てていた構内の電話やビデオ会議システムを一元化でき、また管理運用の簡素化とコスト低減を行える。

Cisco CallManger 対応による特長は、以下の通り。(1) Cisco CallManger をベースとした企業内IP電話などとネットワークでつながり、IPアドレスでなく電話番号を入力するだけでビデオ会議が開始できる。(2) 社内では、内線番号を入力するだけでビデオ会議を開始、途中参加も容易に行える。(3) 複数地点間でも ISDN、ADSL など電話回線の違いや固定・携帯など機器の違いを意識せずに接続が可能。(4) 社内の音声、映像、データを含めたコミュニケーション基盤の連携と強化が可能。

Cisco CallManger は、全世界で 15,000 社もの企業・団体で導入されているシスコシステムズ社のIPコミュニケーションネットワークの中核ソフトウェア。通信制御や端末管理、公衆回線との接続を可能にし、高い機能性を持たせた、単一で分散型の仮想テレフォニーネットワークを実現する。ソニーのビデオ会議端末が SCCP をサポートすることにより、CallManager 環境下でIPフォンと同様な使い方ができる。

企業内の回線電話は、IP化が進行しており、今後 3 年間で、現在全世界で稼働している企業向け構内電話システムの約3割以上がIP化されると言われている。ソニーとしては、これを大きな商機と捉え、より高性能で使いやすいビデオ会議システム機器の開発、製品化に取り組むという。

■日本アビオニクス、MCUなしで20カ所接続のUSBメモリ型パソコン会議ソフトウェア「USBCollabo-20V」発売



CollaboMate

日本アビオニクス(東京都港区)は、遠隔地とのリアルタイムなコラボレーションを実現する「データコラボレーションシステム CollaboMate(コラボメイト)」の新ラインナップとして、「USBメモリ型パソコン会議ソフトウェア USBCollabo-20V」をTDK(東京都中央区)と共同開発し、2005年3月31日に発売する。

TDK との共同開発の意義については、同社が持つストリーミング技術「WanderStream」と日本アビオニクスの「コラボメイト」の映像通信技術を融合させることにより、「日本アビオニクスが目指すデータ会議の市場における操作性や通信回線の多様性に対応することが目的。」(日本アビオニクス 電子装置営業本部 管理部 課長 富岡 博氏)

また、両社の関係については、TDK 新規事業開発部 MPEG4 ソリューションビジネスグループ課長 福井 健一郎氏は以下のように述べた。「TDK では、画像配信技術を開発してきた。今回日本アビオニクスとはスペシャルパートナーとして今後も協業していきたいと考える。」(3月11日日本アビオニクス本社で開催された新製品発表会の会場での講演)

USBCollabo-20Vは、音声・動画・資料による遠隔会議を、多地点接続装置(MCU)なしで同時に 20 拠点接続することが可能なソフトウェア。そのソフトウェアはUSBメモリに搭載さ

れている。そのため、パソコンに USB メモリを差し込むだけで、ソフトウェアが自動起動(オートラン機能)する。従ってあらかじめパソコンにソフトウェアがなくても簡単にソフトウェアを起動、会議が行える。また、起動後わかりやすいボタン形式のユーザーインターフェイスで簡単に会議に参加でき、会議中の共有資料も XGA(1024×768 ピクセルの解像度)の画質で鮮明に表示する。



CollaboMate ガイド画面

同社では、2002年8月から「データコラボレーションシステム CollaboMate(コラボメイト)シリーズ」を発売してきたが、ユーザーからの要望が多かった音声の一体化やMCUなしでの多地点接続を実現した。音声の一体化については、「発売以来コラボメイトはおかげさまで好評だが、従来のコラボメイトは、データ資料中心の製品で音声部分は別システムによる構成をとっていた。そこで、システム価格やコラボメイトとの連携という点において、特に音声だけでも一体化することでオールインワンでの使い方に対応した。」(同社 富岡 博氏)



USB Collabo-20V(写真左)の主な特長については、(1)パソコンのUSBインターフェイスに差し

込むだけで、ソフトウェアを自動インストール(初回のみ)自動起動する、自動インストール・自動起動機能、(2)MCU

サーバーなどの専用機器を使用せず会議に参加するパソコンだけで20拠点同時会議が行える、(3)音声と動画はMPEG-4を使用。音声はCD並(サンプリングレート44khz)。動画の解像度は、QCIF、表示は最大XGAまで拡大、(4)さまざまなパソコン上のファイル資料を共有できる。加えて資料に応じて配信速度を変えられる、(5)ポインター、ペンツールなどでの、資料への書き込みが行える、(6)入退室、会議室ロック、途中入室時の資料自動配布、会議中の発言要求、プレゼンター交代、資料事前準備などの会議運営機能、(7)JPEGやPDF形式で議事録の保存。

日本アビオニクスは、USB Collabo-20Vを198,000円(税別)で発売。初年度販売目標を、1000本とする。USB Collabo-20V以外にも、動画音声なしのUSB Collabo-20も販売している。

<広告>



MeetingPlaza ビジネス必勝 V3 キャンペーン ◆ 3/31(木)まで「MP」+「3つのV」でビジネス大成功 - ASP 導入は今がチャンス!

2/1~3/31の2ヶ月間、(1)初期費用無料、(2)ウェブカメラ/ヘッドセット(各2セット、フレックス2のみ1セット)、(3)マイク、エコーキャンセラー付きUSBスピーカー(ペア)が毎月5名様、期間中 計10名様に抽選で当たる、年度末キャンペーンを開催中! ◎詳細は→

<http://www.meetingplaza.com/campaign2005/>

【NTTコム】.Phone Web Connect ~powered by WebEx~ PCをネットにつないでWeb会議。2週間無料お試し実施中



●たとえばこんなとき!
▼遠隔地との打ち合わせに!
▼オンラインサポート業務に!
▼海外との共同作業に!
オンライン申し込み受付中

↓↓詳しくはこちらから↓↓
<http://mlclick.desk.ne.jp/mlad/AZ/BVF0001.html>

■NTT グループ企業、モバイルとブロードバンドの連携による映像コミュニケーションサービス「ドットフォン ビジネスV」の提供開始

NTT コミュニケーションズ(東京都千代田区)は、NTT ドコモ(東京都千代田区)とNTT レゾナント(東京都千代田区)と

連携し、2004年10月5日からパソコンとFOMA間でテレビ電話ができるトライアルサービスを提供してきたが、今月3月8日より本格的な商用サービス「ドットフォン ビジネスV」の提供を開始。本サービスは、NTTグループが推進するレゾナント構想のもと、固定通信とモバイル通信を融合したサービスを実現。本サービスをはじめ映像コミュニケーションにおける新たなアプリケーションを展開する。

具体的な利用例としては、FOMAとの映像通信を使い作業の進捗や故障の状況を現場から事務所へリアルタイムに報告、その場で指示を受けるフィールドサービスでの利用、学習塾や語学学校の遠隔授業での利用、あるいは、多地点接続サービスを使った、顔を見ながらの打ち合わせやブレインストーミングなど、固定通信とモバイル通信をシームレスに融合した通信アプリケーションの可能性があるとみる。

利用料としては、月額基本料が3,000円(税抜き、以下同)、FOMA通信料が1分55円、多地点接続利用料が参加者毎に1分30円などとなっている。

■トーマンサイバービジネスとオールネットコミュニケーション、1Uタイプのビデオ会議アプライアンス製品 VCB シリーズを発表



VCB シリーズ

トーマンサイバービジネス(東京都港区)とオールネットコミュニケーション(東京都新宿区)は共同で、1UタイプのH.323に対応したVisual Nexusアプライアンス製品「ビジュアルコミュニケーションボックス」を開発。オールネットコミュニケーションから「VCB1000シリーズ」は、3月14日から、「VCB2000」は、4月中旬から順次販売を開始する。

ビジュアルコミュニケーションボックスは、Visual Nexusをアプライアンス化し、これまで複雑だったインストール作業を自社で行う手間が省け、購入後必要な設定を行うだけで利用できることがアプライアンス製品の特長となっているが、ビデオ会議システムを構築する企業ユーザーからの強い要望があったという。

H.323に準拠しているため、別売の専用PCソフトウェア「Visual Nexus Endpoint」を利用することにより、多地点でのビデオ会議が行え、なおかつH.323に対応した専用のビデオ会議端末とも混在での会議も行える。

上位機種である、VCB2000シリーズは、4月中旬出荷予定で、H.323対応製品では難しいとされていた、NATやファイアーウォール経由での接続が簡単に行われる。また、今後暗号化機能も搭載するためインターネット経由での接続でもセキュリティを確保できる。

ビジュアルコミュニケーションボックスの特長としては、多地点接続、ゲートキーパー、会議予約システム、議長制会議対応などの基本性能以外には、(1)ポリコム、TANDBERG、ソニー、アエスラ、Visual Nexus EndpointなどH.323端末との通信が可能、(2)端末に依存しない多画面分割、発言者への自動切り替え、一定時間による自動切り替え、表示映像の任意切り替えなど多彩な画面表示、(3)システム管理・監視においては、自動バックアップ、接続ログ解析、Webインターフェイスでのシステム管理、システムのリモート監視(オプション)などがある。

システムのリモート監視については、オールネットコミュニケーションのリモート監視センターより、ユーザーのビジュアルコミュニケーションボックスの稼働状態を監視し、異常発生時にメールで通知するサービス。

ビジュアルコミュニケーションボックスの標準価格(消費税込み)は、VCB1000シリーズの5拠点接続モデルが149万8000円、10拠点接続モデルが229万8000円、VCB2000シリーズの5拠点モデルが229万8000円、10拠点モデルが369万8000円となっている。

■米 Centra 社、Centra Live を発表

Web会議ソリューションを提供する米Centra社は、現行の「Liveコラボレーションの統合プラットフォームCentra 7」の機能拡張版「Centra Live」を発表した。発売開始は2005年6月から。Centra Liveでは、操作性を考えたよりシンプルなユーザーインターフェイス画面、インスタントメッセージング、メール、カレンダーツール、企業内で活用されているアプリケーション、学習用マネジメントシステム(LMS)などの統合による企業内ワークフローへの親和性を高めた。

また、IPネットワークの使用帯域により最適化を行うVoIP

用の機能、4 箇所までのビデオ会議機能、大規模イベント用のチャットツール機能など。Centra 7は2003年6月発売していたもの。(CNA レポートジャパン:Centra 7 Vol.5 No.9 2003年5月15日号)(バージョン 7.1 Vol.6 No.9 2004年5月15日号)

■米マイクロソフト、Microsoft Office Live Meeting 2005の発表

米マイクロソフトは、同社が提供するウェブ会議サービスの新バージョン Microsoft Office Live Meeting 2005 を発表した。

今回の新バージョンでは、(1)Word、Excel、PowerPoint、Outlook、インスタントメッセージングなど Microsoft Office などのソフトウェアから会議を開始できる機能、(2)音声制御機能により、音声とウェブ会議が統合。MCI、BT、Intercall 各社の電話会議サービスより簡単にウェブ会議のユーザー操作、制御(会議の開始、接続、切断、音声遮断などが行える)、(3)ドキュメントビューアーによる、あらゆるタイプの文書表示及びズームング、(4)パワーポイントスライドにおいてアニメーション、スライドショー、全画面モードのサポート、(5)今回の新バージョンでは、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、スペイン語の7カ国語に対応、(6)会議の参加者を、発表者へ変更する、出席者のプロフィールを提供する、会議参加者を固定する、新たな参加者を募る、などの会議の管理に関連した機能の提供、(7)発表者は、サムネールの活用により、発表内容の全体的な把握や簡単かつ迅速なスライドナビゲーションが可能、などがある。

Microsoft Office Live Meeting 2005 は、3月11日から提供開始。Standard エディションと Professional エディションが提供される Live Meeting は、ホスト提供型のオンラインサービスとして提供される。14日間の限定試用権を無償で提供。また、ライセンス契約は、named user、room、shared seat、monthly minute など何種類もある。さらに、プロ用のイベント管理機能「Live Meeting Event Services」も利用できる。

販売については、Microsoft Select Program や Microsoft Enterprise Agreement Program への参加資格を持つユーザー企業顧客に対しては、6月30日までの期間、Live Meeting、Microsoft Office Live Communications Server、

Microsoft Office Communicator をディスカウント価格で購入することができる。

【編集長橋本のコメント】

Microsoft Office Live Meeting は、もともとマイクロソフトが米ウェブ会議サービス提供者 PlaceWare 社を買収した経緯ある。(CNA レポートジャパン Vol.5 No.2 2003年1月31日)

■米マイクロソフト、「Office Communicator 2005」及び「Live Communications Server 2005 アップデート版」を発表

マイクロソフトは、開発コードネーム「イスタンブール」を「Microsoft Office Communicator 2005」と命名するとともに同製品の提供開始時期を発表した。また、合わせて、統合コミュニケーション向けのサーバーソリューションである、「Live Communications Server 2005 のアップデート版」も発表した。

Microsoft Office Communicator 2005 は、(1) Live Communications Server 2005 のクライアントとして、プレゼンス情報、インスタントメッセージング、音声、ビデオ、電話、ウェブ会議などさまざまなコミュニケーション機能を一元管理し、それらを Office や基幹アプリケーションから利用できるようにする。(2)MSN、AOL、Yahoo!などのインスタントメッセージとの接続を実現するためのクライアント側のインターフェイス機能を提供する。(3)Communicator と LCS を組み合わせれば、Outlook、SharePoint、Portal Server、Live Meeting、などの Microsoft Office System のアプリケーションからプレゼンス情報、リアルタイムコミュニケーションの機能を利用することが可能。

さまざまなコミュニケーションを一元管理統合させることによって、ユーザーの状態や嗜好、実際の場所、組織の関係、話の内容などに応じて、メール、メッセージング、ウェブ会議、電話などから最適なツールを選択し、ユーザーが簡単にかつ効率的にコミュニケーションやコラボレーション行えるような環境をソフトウェアがバックグラウンドで自動的に実現し提供する。

Live Communications Server 2005 のアップデート版については、(1)MSN、AOL、Yahoo!などの主要三社のインスタントメッセージやプレゼンス情報を、高いセキュリティレベルを持たせて提供する、(2)組織間連携管理機能の強化により、

LCS を活用した複数組織の接続が容易になる、(3)インスタントメッセージ経由で送られてくるスパム(スピム)を阻止するための機能強化、などがある。(CNA レポートジャパン Vol.6 No.17 2003年10月31日号)

Microsoft Office Communicator 2005 の提供は、90 日以内に製造が開始される予定。価格及びライセンス方式については、製造が開始される前に発表される予定。

Live Communications Server 2005 サービスパックは、4 月以降マイクロソフトのダウンロードセンターから無償でダウンロードできる予定。

インスタントメッセージ接続機能(PIC)のライセンスは、4 月 1 日からユーザー毎の年単位加入契約というライセンス方式のもとに提供され、このライセンスには、MSN、AOL、Yahoo!三社へのアクセス権が含まれる予定。現在所有の LCS クライアントアクセスライセンス並びにサービスパックのアップグレードが必要。

販売については、Microsoft Select Program や Microsoft Enterprise Agreement Program への参加資格を持つユーザー企業顧客に対しては、6 月 30 日までの期間、Live Meeting、Microsoft Office Live Communications Server、Microsoft Office Communicator をディスカウント価格で購入することができる。

■米マイクロソフト、Groove Networks を買収、GN の CEO Ray Ozzie 氏(Lotus Notes の生みの親)マイクロソフトの CTO に就任

米マイクロソフトは、P2Pのコラボレーショングループウェア「Groove」を提供する Groove Networks 社を買収することを発表した。買収が完了すると、Groove Networks 社は、現在の本社所在地マサチューセッツ州から変わらないがマイクロソフトのインフォメーション・ワーカー・ビジネス部門に入る。

Groove Networks 社のソリューションは、モバイルワーカーやリモートオフィスなどの面で既存のマイクロソフトのコラボレーションソフトを補完する。Groove Networks 社へはマイクロソフトも 5100 万 USD(約 52 億円)出資している。

Groove Networks 社の創業者であり会長兼 CEO の Ray Ozzie 氏は、買収合併と同時にマイクロソフト CTO に就任する。同氏は、“Lotus Notes の生みの親”と呼ばれ、マイク

ロフトから“Windows パイオニア(Windows プラットフォームの支持者)”として 1994 年以来評されている人物。

■米 Electronic TeleSpan ニュース:スカイプ邁進:無料の VoIP 音声会議は、固定電話に掛ける場合分あたり 2US セント程度

PCベースの VoIP サービスをグローバルに提供するスカイプについては、過去にも何回かこの Electronics TeleSpan ニュースで取り上げてきたが、スカイプのユーザーはすでに 2800 万に、つまり毎日 14 万の新たなユーザーがスカイプユーザーになっている状況。音声通話によるサービスは、1年程前に開始されたものだが、利用者は、すでに 55 億分の音声通話を行っているという。私自身がなぜこのスカイプを取り上げているかという、スカイプ自体の音声会議機能が非常に洗練されてきているという理由からだ。そういう意味でスカイプはその動向をワッチするに十分に値する。

スカイプは、5人同時の音声会議を行える。その参加者が世界のどこにしようとも、参加する端末がPCだけでなくPDAだったり、携帯電話だったり、固定電話だったりするわけだがそれらは問題ではない。

たとえば、モトローラは、スカイプと提携し、モトローラの最新の携帯電話機でスカイプの VoIP の音声通話が行えるように開発している。さらに、スカイプは、現在すでに、インターネット VoIP から固定などの電話にコールするサービス「Skype-Out」を提供している。この Skype-Out だと、約 2USD で世界 22ヶ国と音声による通話が行える。

スカイプの音声会議を使った後、スカイプの社員のの人に聞いた質問は、「この音声会議機能は、10代の若者が音声チャットで使うことを想定しているのか、それとも、“見た目(注釈:エリオットゴールドが持った印象)”からデートサービス向けともれそうな気がするが。」と聞いてみた。そうすると、帰ってきた答えは、「利用ユーザーに対してアンケート調査をしてみたところ、約 30%のユーザーが“日常業務の時間内”で使っているということがわかった。」(スカイプ社 メディアスポークスマン Daniel Twigg 氏)

彼の返答では、そのビジネスユーザーが音声会議で使っているのかどうかということについては言及しなかったが、いずれにしても、“大人”が“日常業務の時間内”に使っているのは間違いのないようだ。その大人達が“音声会議”を使う日もそ

う遠くはないと思う。

スカイプのユーザーは、スカイプの本社があるヨーロッパで全体の 50%が、そして 15%が北米といわれている。

今後もこのスカイプをワッチしていく。



執筆: Elliot Gold

President, TeleSpan Publishing Corporation

<http://www.telespan.com>

翻訳: CNA レポートジャパン編集長 橋本啓介

【編集長橋本のコメント】この Electronic TeleSpan ニュースは、1980 年から発行されている業界の中でもっとも古い業界ニュースレター。現在は年間40回 PDF にて発行。年間購読料 377USD。英語の文体は非常にわかりやすいが、口語英語やくだけた文章が多用されたり、アメリカの文化を知らないとわかりづらい文章もある。しかし、他の無償の同様な業界ニュースと比べ、一般ではあまり知られていない情報や、表のニュースではでてこないニュースもあるため、特に北米の業界を詳しく知りたい人には読み応えのあるニュースレター。業界では辛口の評論で有名なエリオットゴールドは今年 60 歳。

ショートニュース項目

◆米 WebEx 社の「WebEx Training Center」は、「WebEx Presentation Studio」のコンテンツ編集及び発行の機能を統合した。コンテンツ編集及び発行機能を統合することにより、WebEx Training Center でのオンライントレーニング用のコンテンツの制作、修正、編集が容易に行える。

◆米音声会議端末を開発するクリアワン社は、在カナダのクリアワン社の法人クリアワンカナダ社を事業再編の一環として売却したと発表した。OM Video の名前でカナダ東部地区において、オーディオビジュアルのインテグレーションサービスを提供してきた。

◆米 WebEx 社は、ユーザーが同社のウェブ会議サービスを利用するにあたってのアシストサービス「Global Assist Services」を発表。アシストサービスを提供する担当者は、北米、ヨーロッパ、またアジアなどに在し、簡単な会議開始でのアシストからオンラインイベントやトレーニングなどの企画からプロデュースまで対応する。

◆米 iLinc Communications 社(前 EDT ラーニング社)は、4本のウェブ会議ソフトウェアがバンドルされた「iLinc Suite」を発売。4本のウェブ会議ソフトウェアは、「MeetingLinc(セールス及びプレゼンテーション、スタッフミーティング用)」、「LearnLinc(ライブオンラインインストラクション用)」、「ConferenceLinc(イベント用)」、「SupportLinc(カスタマーサポート用)」のソフトウェアがバンドルされている。

◆イタリアのテレビ会議メーカ アエスラ社(Aethra Spa)は、イギリスに初の同社の営業所を開設。同社は、世界60ヶ国に製品を出荷。パリ、マドリッド、北京、などに直系の営業拠点があり、関連会社としては、マイアミに Aethra Inc 社、中国深圳に Aethra Technology 社、そしてサンパウロに Aethra Ameris 社がある。

◆米ロジテック社のウェブカメラの売上げ 2500 万台を達成。米の調査会社 IDC によると、世界でもっとも多くウェブカメラを販売しているのは、ロジテック社で、1998年以降世界のウェブカメラ供給量の約37%を出荷している。米国内では、全販売台数の42%。全世界でウェブカメラ販売数1800万台の、38%を出荷している。

◆イタリアのテレビ会議メーカ アエスラ社(Aethra Spa)の在アメリカ関連会社 Aethra Inc 社は、米 Nine-One-One Communication Supply 社と提携。Nine-One-One Communication Supply 社は、通信機器専門の卸業、機器修理調整などを行う会社。今回の提携でアエスラ社製品を取り扱う。

◆米エゼニア!社は、米マイクロソフト社とのソフトウェアライセンスディストリビューションにおいて契約を更新したと発表。この契約により、マイクロソフト社のウェブ会議機能をエゼニア!社のコラボレーションソリューションである「LaunchPad」や「InfoWorkSpace」に統合することを可能とする。契約は基本的に3年間で、毎年ビジネス状況をレビューすること、仕切り価格を抑える、エゼニア!社の売上に対するコミットメントなどが契約条件。

◆イタリアのテレビ会議メーカ アエスラ社(Aethra Spa)のCEOが交代。アエスラ社創業者の Giulio Viezzoli 氏が退任し、息子の Marco Viezzoli 氏が就任。Marco Viezzoli 氏は、ロンドン大学でビジネスマネジメントの修士号を持つ。その後アエスラに入社10年間で財務部、人事部、購買部など管理部門畑を経験し、国際ビジネスの拡大と共に2003年国際セー

ルス部門の責任者になった。2004年1月には同社経営幹部となり、今回のCEO就任となった。また同時に取締役会には、Girolamo Di Genova氏も就任。

イベント情報

■「フレッツフォン」特別限定セミナー

主催：株式会社ウイルアライアンス

協賛：NTT東日本

開催日時：平成17年3月22日(火) 15:00～17:00

会場：ルポール麹町(麹町会館)2F

「サファイア」の間

対象者：システム・インテグレーション関係の業種向け

参加費：無料

*1)NTT東日本フレッツフォン開発担当・大村佳久部門長からの最新動向報告。

(2)今後の開発計画(FOMAとの接続など)、お客様向けのシステム構築に役立つ機器のご紹介。

(3)導入事例および応用事例のご紹介。

詳細申込み：<http://www.fph-seisaku.com/seminar/>

■HP Open system seminar

ワークフローを革新するビジネスコミュニケーションのご紹介

日時：3/25(金) 13:30～16:00(受付 13:00～)

主催：日本HP

出展会社：丸紅テレコム株式会社

場所：市ヶ谷 日本HP

詳細：

<http://h50146.www5.hp.com/events/seminars/oss/0503/09.html>

■IP&Wireless Forum 2005

開催日時：2004年4月13(水)～14(木) 10:30～17:30

開催場所：東京ビッグサイト 西3ホール

主催：株式会社リックテレコム

共催：E.J.クラウド&アソシエート社

詳細：<http://www.ric.co.jp/expo/ip2005/>

>F1 4/14 10:55-12:00 パネルディスカッション

ビジュアルコミュニケーション導入決断の理由と

活用効果(事前予約要)

～導入企業に見る「コスト削減」と「スピード経営」～

パネラー：

日本大学商学部 教授 工学博士

ビジュアルコミュニケーション推進協議会・会長

児玉 充氏

ビジュアルコミュニケーション推進協議会・事務局長

藤原 祥隆氏

他、導入ユーザー企業：2社

>無料個別相談

ビジュアルコミュニケーションシステム活用

4/14 13:00～17:00

相談員：日本大学商学部 教授 工学博士

ビジュアルコミュニケーション協議会・会長 児玉 充氏

BCS Tokyo 2005 出展企業募集

本年度も出展企業に集まって頂ければ、ウェブ会議、ビデオ会議、電話会議の専門展示会&セミナーBCS Tokyo 2005の開催を予定しております。出展申込み期限は、3月30日です。

ちなみに、昨年の詳細は<http://cnar.jp/bcs/> でご参照いただけます。

■日程：

開催日 2005年7月14日(木) - 7月15日(金)

■場所：

財団法人機械産業記念事業財団 青山TEPIA

BCS Tokyo 2005 詳細等：<http://cnar.jp/bcstokyo.htm>

3月11日現在の準備状況。上記URLには下記情報はありませんが、最新の情報は以下をご参照ください。

1. BCSTokyo告知関係

BCSTokyoの告知関係は、昨年の日経BP社と東洋経済新報社に加え、リックテレコム、キーマンズネットで予定しております。

東洋経済新報社、リックテレコム、キーマンズネットについては、現在内容を調整中ですが、日経BP社については、日経コミュニケーションと日経情報ストラテジー(どちらかの媒体、予算があれば両方)での広告企画でのBCSの告知(出展企業社名掲載)、nikkeibp.jp メールへの広告掲載を予定しております。

広告では、出展企業社名が表示できるような形で準備できればと考えております。昨年日経コミュニケーションにBCSの告知広告を行った際は、出展企業名一覧を掲載いたしました。

日経BP社告知予定日：

日経コミュニケーション：6月28日号

日経情報ストラテジー：6月24日号

IT PROウェブサイト：6月28日-7月12日掲載

2. 後援企業・団体

現在、後援企業・団体については下記が決定しておりますが、もう1社～2社予定しております。

後援企業・団体(3月11日現在)
 株式会社東洋経済新報社
 HATS 推進会議
 株式会社シード・プランニング
 IMTC (International Multimedia Telecommunications Consortium)
 特定非営利活動法人
 オープンソースでネットコミュニティを開拓する会

3. エンドユーザー入門者向け気軽に相談できる無料Q&A相談コーナー

無料Q&A相談コーナーの開設を今回予定しておりますが、基本的には、入門者向けの相談窓口としますので、相談員は、エンドユーザーでもヘビーユーザーの方をお願いしたいと考えておりますが、その他、製品やサービス、技術傾向について中立的にお話ができる方々を予定しております。

4. いろは小冊子

エンドユーザー入門者向けの小冊子作成ですが、この小冊子を一読すると、会議ツールとは何か、メリット、導入ポイント、簡単な事例、用語などが簡単にわかる内容を考えています。

小冊子作成にあたって、コンテンツ、文言などご協力いただける出展企業様については、その旨小冊子内に表示させていただきます。また、出展企業一覧も巻末に表示させていただきます。

5. 有料セミナー、無料プレゼンコーナー(検討中コンテンツ)

- (1) 有料セミナー(ジェネラルトラック)
 - ーエンドユーザーをパネラーとしたパネルディスカッション
 - ー経済界から経営とITについて講演できる方を検討中ですが未定。
- (2) 有料セミナー(テクニカルトラック)
 - ーHATS推進会議様等による技術トレンド講演
- (3) 無料プレゼンコーナー

- ー会議システムメーカーなど業界系企業等をパネラーとしたパネルディスカッション
- ー調査会社(複数社)をパネラーとしたパネルディスカッション

CNAレポートジャパン ブログ



CNAレポートジャパンではブログを開始しました。日々のニュースや、編集長のコメントなどアップします。
<http://cnar.jp/blog.htm>
 メモ代わりに使っているという感じです。

CNAレポートジャパン掲示板

CNAレポートジャパン情報・意見交換掲示板

新規スレッド | ホームに戻る | 留意事項 | ワード検索 | 過去ログ | 管理用 |

スレッド一覧	作成者	返信	参照	最終更新
トピックス				
ポルシェデザインを使ったテレビ電話機	管理人橋本	0	3	2004/12/28 16:12 by 管理人橋本
トラブル時の対応について	H264	7	213	2004/11/12 15:53 by 黒木 洋平
フレックソーン	管理人橋本	0	148	2004/10/04 23:51 by 管理人橋本
テレビ会議、ビデオ会議	ポール	1	152	2004/09/17 12:14 by 管理人橋本
VO事業会社あるの？	CAPRICORN	5	238	2004/09/13 20:02 by CAPRICORN
インターネット会議について	管理人橋本	1	233	2004/09/10 11:06 by hameshin
テレビ会議講演の資料	管理人橋本	2	256	2004/09/03 14:37 by 谷口

標準スレッド | ロック中(書込不可) | アラーム(返信数90件以上) | 管理者メッセージ

- Web.Patio -

CNAレポートジャパンでは掲示板を運営しています。会議関連の質問などどんどん書き込んでみてください。

掲示板: <http://cnar.jp/patio/patio.cgi>

編集後記

今回お読みいただきまして有り難うございました。

編集長橋本は、船橋市内で SOHO で仕事をしておりますが、3月29日に家族と共に転居する予定です。同じ船橋市内ですが、3月29日から電話番号等が変更になりますので、名刺交換させていただいた方には基本的には別途ご連絡させていただきます。メールアドレス、携帯電話番号は変更ありません。今後ともよろしく願い致します。

CNAレポートジャパン
 編集長 橋本 啓介 k@cnar.jp (CNAレポートジャパン
 Vol 7. No.4 2005年3月15日号終わり) 次号 Vol 7. No.
 6は、2005年3月31日の発行を予定しております。